

大阪民衆史研究会報

2025年4月号
第32巻第3号
(通巻354号)

発行 大阪民衆史研究会 (代表 林 耕二)

E-mail: osaka.minshushi@gmail.com (オーサカ ドット ミンシューシ)

例会のお知らせ

◇5月例会

日時 5月17日(土) 見学会「百舌鳥古墳群を歩く」

集合 13時半 南海高野線 三国ヶ丘駅改札前 案内 平島将史さん

昨年巡検した古市古墳群と同時に2019年に世界遺産に指定された百舌鳥古墳群。

その中心である大山(大仙陵)古墳はギザのピラミッド・秦の始皇帝陵と並んで世界3大墳墓(面積・長さは世界最大)に数えられるが、その中に立ち入ることは禁じられ、かつその被葬者も宮内庁が治定する仁徳天皇ではないという見解が考古学的にはほぼ通説である。その古墳の巨大さを実際に足を運んで実感し、築造に当たった民衆の息吹に触れると共に、その周辺の古墳群を巡り、戦後古墳群の半分以上が破壊された経緯や、その動きに抗して古墳を守り抜いた市民の取り組みに学び、古代から近現代に至る権力者と民衆の相克、民衆の現実性を踏まえた動き等を看取する機会として、百舌鳥古墳群を巡検する。

(事前申込) メール osaka.minshushi@gmail.com

まで

◇6月例会

日時 6月8日(日) 13時半開場、14時開会

会場 大阪府教育会館 3F 菊の間

報告 岸 博美さん(日本盲教育史研究会事務局長)

「日本盲教育の歴史—文字への渴望：点字のある時ない時」

まず、「視覚障害」・「文字」について、一緒に考えましょう。言い換えれば、「見えないってどんなこと？」と「人間にとっての文字とは？」のお話。次に、一般の文字の特徴をおさえた上で、盲人のための文字の探求史をたどり、「ルイ・ブライユの点字」の長所を浮き彫りにします。さらに、わが国の「盲人と文字」の関係を、江戸期までと明治以後の順に追い、点字をめぐる現在の状況と将来をみつめます。キーワードは「暁天の星」から「満天の星へ」。そして、私の拙い作品「つぶらな わたし」もご紹介させていただきます。(岸)

各例会 参加費 会員 400円 非会員 500円